

令和2年度 学校教育目標と重点目標

「生きる力」を身に付け、夢を持ち、たくましく未来を切り開いていく児童の育成

- 進んで学ぶ子
☆学習ルールや学び方を身に付け、自分の考えを積極的に発表しようとする力を伸ばす
- 助け合う子
☆自他を思いやり、善悪の判断を正しくできる子を育てる
- 頑張り抜く子
☆困難に負けず、チャレンジしようとする行動力と強い心を支える

本校児童の課題～協働型学校評価重点目標設定にあたって～

- ◇素直で真面目で、指示された内容には取り組む反面、向上しようとする気持ちが弱い。
- ◇自分の思いや考えを相手に伝えることを苦手とする児童が見られる
- ◇挨拶や問いかけ等に対する受け答えに積極性がない
- ◇入学から一定の交友関係にあり、他者に対しての関わりや働きかけの経験が足りない。

育てたい力

【進んで学ぶ子】

確かな学力を付けさせる

自己肯定感・自信

【頑張りぬく子】

責任を持って自分の仕事を行わせる

協働型学校評価到達目標(2年目)

自信を持ち、未来へ向かって生き生きと活動する心の育成

協働型学校評価重点目標 → 「児童の自己肯定感・自己有用感の向上」

令和2年度に実現を目指す児童の具体的な姿

- ①一人一人が学年に応じた家庭学習に取り組む。家庭学習の時間＝(学年+1)×10分
- ②学校や家庭で、自分の仕事に責任を持って取り組む。

協働型学校評価重点目標実現のための三者の改善活動

【学校・教職員】

- ①家庭学習の手引きを作成し、児童と家庭に啓発する。
- ①宿題、家庭学習をしっかりと点検するとともに、頑張り認め成就感を持たせる。
- ②児童会や係活動などの積極的に仕事に取り組みせ、その頑張り認め成就感を持たせる。

【保護者】

- ①テレビを消すなど集中して家庭学習に取り組む時間を確保できるように、環境を整える。
- ①励ましや賞賛の働きかけを行う
- ②家庭の中での仕事の役割を与え、継続して取り組ませる。
- ②励ましや賞賛の働きかけを行う。

【地域】

- ②地域の行事や市民センター等の催し物に参加した児童を見守り、励ますようにする。
- ※顔見知りの児童とは、積極的に挨拶や会話を交わす
- ※児童の挨拶から心地よい印象を受けたときには、積極的に賞賛する